

病虫害発生予察特殊報(第3号)

平成15年10月9日

神奈川県病虫害防除所長

病虫害名：クリバネアザミウマ
Hercinothrips femoralis REUTER

作物名：クワイ、アガパンサス

1 発生経過

- (1) 平成15年9月上旬、平塚市上吉沢の温室で栽培しているクワイ及びアガパンサス(ユリ科の花き)にアザミウマ類によると思われる食害が確認された。本県で未確認のアザミウマの可能性が示唆されたため、9月10日に農業総合研究所より農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、クリバネアザミウマであることが確認された。
- (2) 本種は海外からの侵入害虫で、平成4年に北海道、関東及び近畿地方の施設内で発生が報告されている。最近では平成13年4月に静岡県でディフェンバキア(サトイモ科の観葉植物)、平成15年3月に高知県で施設ピーマン、シシトウへの発生と被害の報告があるが、本県で有用植物の被害は初めての発生である。

2 被害の特徴

- (1) クワイでは大小各生長段階の展開葉の表裏および葉柄に寄生し、口器でなめるように食害する。吸汁加害により、葉の両面でシルバリング症状、退緑斑点が発生する。加害が進むと、かすり症状やえそ斑となる。また、排泄物によりスス状の汚れが発生する。著しい場合は葉が枯死する。
- (2) アガパンサスでは展開葉に寄生し、吸汁加害により退緑斑点が発生する。葉の表面で被害が多く裏面では少ない。葉の基部で寄生数がやや多い傾向である。

3 形態及び生態

(1) 形態

雌成虫の体長は1.2～1.5mmで、体色は褐色である。頭部は複眼と単眼の間が黄色～茶色で、前翅には黄色の帯がある。また前脚の全てと中脚及び後脚の腿節以外は黄色である。幼虫の体色は黄色だが、腹部背面は排泄物が固着して茶色～褐色に見える。尾部末端に褐色で球状の排泄物を保有する場合も多い。

(2) 生態

本種は南方系の種で、24 での発育期間は 24 日。国内では雄成虫は発見されておらず、雌成虫のみで単為生殖する。従来温室内のみ発生とされてきたが、近年、野外でも見られる。

3 寄主植物

本種の寄主範囲は広く、海外ではコショウ科、イラクサ科、アカザ科、バラ科、サボテン科、ウコギ科、サクラソウ科、キョウチクトウ科、シソ科、ナス科、オオバコ科、キク科、イネ科、カヤツリグサ科、サトイモ科、アナナス科、ツユクサ科、ユリ科、ヒガンバナ科、バショウ科、ラン科で報告がある。

4 防除対策

(1) 本種は成幼虫ともに各種殺虫剤に対する感受性が高いので、発生した場合は当該作物に登録のある薬剤を散布する。

(2) 本種は寄主範囲が広く、雑草等に寄生する可能性があるため、ほ場内外の除草に努める。



クリバネアザミウマ成虫



クワイの被害

神奈川県 平塚市上吉沢 1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス 0463-58-6612
URL <http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp>